

学校評価（中間評価）

本年度の 重点目標 (評価項目)	①各部における目指す子供像の確立を目指し、系統性のある教育課程の構築を図る。		
	②業務の効率化・マニュアル化を図り、働きやすい職場環境づくりを推進する。		
	③児童生徒一人一人に対する高い人権意識とそれに基づく実践力の向上を図る。		
自己評価			
担当	重点目標	具体的方策	中間評価
総務部	保護者に対して必要な情報をメールで発信する。②	・ P T A 総会、役員会の開催について、案内文、アンケートを電子メールや入力用フォームを活用した方法で行う。 ・ 2 学期の学校評価アンケートに、学校からの情報発信についての項目を設け、保護者からの意見を聞く。	・ 職員、保護者ともに電子メール、入力用フォームを活用した方法に対して不慣れな部分があったが、集計面では効率化できた。今後はメールの文面に目的や回答期限を明記し、回答が得られやすいものにする。同時に紙媒体も活用して情報を伝えていく。 ・ 学校評価アンケートに情報発信に関する項目を設ける。アンケート結果を基に、今年度中に、 P T A 総会の案内や出欠アンケートの取り方について検討をしていく。
教務部	個別的教育支援計画・指導計画の効果的な活用について検証する。①	・ 懇談等をとおして保護者の思いを聞き取り、それらを反映した支援・指導計画を作成する。 ・ 作成した支援・指導計画を基に、評価の三観点を意識した授業を行う。 ・ I 期終了後より、現在の支援・指導計画の問題点を洗い出し、次年度以降に様式が変更できるように準備を進める。	・ I 期終了後、個別的教育支援計画・指導計画の現行様式について職員アンケートをとり、問題点を洗い出した。今後、部会や教育課程委員会等で改善点を提案していく予定である。 ・ 様式の変更に関連して、児童生徒の情報を一元化して扱えるように、校務支援システムの運用ができるように準備を進めている。今年度中に、職員用マニュアルを作成する予定である。
情報図書部	教員の授業・校務に使える I C T 技術のスキルアップを図る。①②	・ 2 か月に一回程度教員向けの I C T 通信を発行し、授業や校務で使える I C T の情報発信を行う。 ・ 授業や校務で使える I C T の研修会を行う。	・ グループウェアで 2 か月に 1 度の I C T 通信の発行や夏季休業中に研修を行った。校務に役立つ I C T 活用の情報発信をすることで、校務において情報発信以前より教員の I C T 技術の向上が見られた。情報発信は、新しく導入したシステムの使い方や改訂した規定の周知が主になったため、今年度中に授業での I C T 活用についても情報発信を計画したい。
研修部	現在の生活単元学習の指導計画を見直し、各教科の目標を達成するために必要な指導内容を考察し、各学年で単元を考える。①	・ 校内研究のテーマとして全教員で取り組む。 ・ 生活単元学習における各教科の取扱について、1 学期 1 回、夏季休業中 1 回講義を行い、全教員の理解を深める。 ・ 学習指導要領の指導内容を基にして、現在の年間指導計画の「2 指導計画」の内容を 2 学期に見直す。 ・ 3 学期に反省アンケートを実施する。	・ 2 回の研修会を行った後、「教育内容と指導の形態」に関するアンケートを行った。教育内容と指導の形態の違いや、必要に応じて指導の形態を変えて教育内容を指導しているということが理解できた教員の割合、各教科等を合わせた指導において各教科の内容を取り扱うことの必要性への意識を高められた教員の割合が、ともに約 9 割であった。今年度中に、現在の年間指導計画では各教科の目標を達成するために不足している指導項目を洗い出し、不足を解消するためにどのような学習内容を取り上げればよいかについて、具体的な例を挙げて考察していく。
生活指導部	いじめについて、未然防止や早期発見に取り組み、適切に対応する。①③	・ 「学校いじめ防止基本方針」を職員会議で周知し、保護者にも H P で提示する。 ・ いじめが起こった場合、いじめ対策委員会を開き組織的に対応する。 ・ 高等部生徒を対象に、生活アンケートを年 2 回（7 月、1 月）実施する。 ・ 生徒会活動として、いじめ防止啓発ポスターや標語を作成し、校内に掲示したり、給食の時間にいじめ防止について放送したりする。	・ 「学校いじめ防止基本方針」について職員会議で職員に周知するとともに、H P で提示した。 ・ 7 月に生活アンケートを実施した。緊急性のある事案は認められなかった。今後も、日頃の生徒の様子を観察して共通理解を図り、生徒指導における未然防止教育に取り組むたい。 ・ 高等部生徒会活動として、集会でいじめ防止についての発表をしたり、ポスターを作成し掲示したりするなど啓発活動を行った。後期生徒会でも、いじめ防止に関する活動を継続して行う。

進路指導部	<p>児童・生徒や保護者へ効果的に進路に関する情報を届ける。②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の進路に関する方針や進路スケジュールが、HP上からいつでも見られるようにしておく。 ・7月、2月に発行している進路ニュース及び福祉事業所見学先一覧は紙面もしくは電子メールでのお知らせにQRコードを記載し、HPからも確認できるようにする。 ・夏季休業中に行っている福祉事業所見学会では、事業所への依頼を電話や直接訪問ではなく、電子メールにて行う。 ・高等部進路説明会は、対面での講話だけでなく録画した動画を保護者限定での配信を行い、アクセスしやすい環境を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、「進路について」「福祉事業所見学会見学先一覧」「進路ニュース7月号」「同窓会総会案内」等をHP上に公開し、いつでも見られるようになっている。他の文書も随時公開する予定である。 ・福祉事業所見学会の事業所への依頼は電子メールで行った。90事業所に書面を準備して郵送することに比べると格段に作業量が軽減したが、8事業所はメールアドレスが不明だったため、確認作業を要した。次年度以降は電子メールで依頼が完了できる予定。(新規事業所を除く) ・高等部進路説明会は録画し、動画サイトにて本校保護者限定で公開した。高1・2向け動画、生徒数105名に対し再生回数80、高3向け動画、生徒数45名に対し再生回数86だった。
保健体育部	<p>緊急対応マニュアルやヒヤリハット事例を共有しやすいものになるよう見直す。②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時でも一目見てどんな行動をすればよいか分かるよう、視覚支援を用いたマニュアルやアクションカードを8月末までに作成する。 ・9月に緊急時のシミュレーション研修を行い、周知する。 ・月に一回、グループウェアのアンケート機能を使ってヒヤリハットの事例を集め、グループウェア等を活用して周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションカードを作成し、9月初旬に全教職員を対象としたシミュレーション研修を実施した。アクションカードを活用することで、緊急時での役割が分かりやすかったという感想が多く見られた。次年度に向けて、実施時期や方法について検討していく。 ・ヒヤリハット事例は現在、報告書を作成した際にグループウェアで周知している。今後、定期的(毎月1回)にアンケート機能を活用して事例を集約・周知し、再発防止策を講じることができるよう、今学期中に計画する。
相談支援部	<p>あゆみ研修会において業務の効率化を目指す。②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設、幼稚園、小学校、中学校、高等学校への研修案内を一斉配信する。 ・入力用フォームを準備し、受付名簿や名札、アンケートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等で各市教育委員会や園長に直接依頼し、4市の幼小中学校、就学前施設への研修案内を一斉配信した。次年度以降も継続していきたい。 ・入力用フォームを作成し、参加者の募集をした。名簿、名札については作成済みで、入力の手間を省くことができた。今後、参加案内を作成、送信し、当日の研修を行っていく予定である。また、研修後のアンケートも、WEBで当日入力できるよう改善した。
勤務時間の適性な管理及び長時間労働による健康障害防止について		<p>「愛知県公立学校働き方改革ロードマップ」に基づき、校務DXの推進、学校行事の見直し、適切な施設時間の設定等の業務の効率化を進めている。時間外45時間超の職員数は、年度当初の4月・5月に多くなる傾向が見られる。マニュアル化や年間業務の平準化による業務の効率化を進めていきたい。</p>	
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<p>①教育活動の質の向上(連続性・系統性のある教育課程の構築) ②学校の組織力の向上(業務の効率化・マニュアル化) ③教員の資質・能力の向上(人権意識とそれに基づく実践力の向上)</p>	